

# 家庭のエネルギー消費の実態とは？



## 家庭部門におけるエネルギー消費の推移

家庭部門のエネルギー消費は、生活の利便性・快適性を追求する国民のライフスタイルの変化、世帯数増加などの社会構造変化の影響を受け、個人消費の伸びとともに、著しく増加しました。

第一次石油ショックのあった1973年度の家庭部門のエネルギー消費量を100とすると、2000年度には216.9まで拡大しました。その後省エネルギー技術の普及と国民の環境保護意識の高揚に従って、家庭部門のエネルギー消費量は低下傾向となり、2014年度には196.1まで低下しました(図1)。

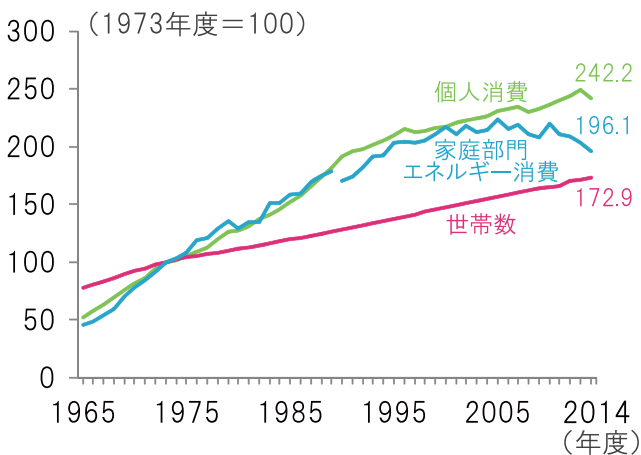


図1. 家庭部門におけるエネルギー消費の推移

(出典) 経済産業省 資源エネルギー庁「エネルギー白書2016」

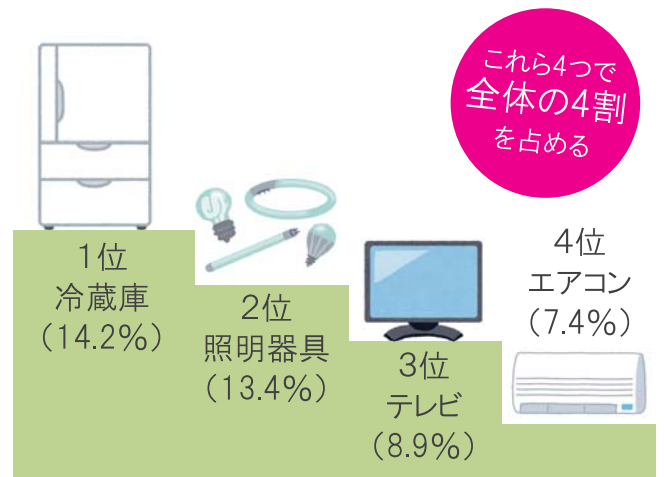
## 待機時消費電力

スイッチを入れていないのに、コンセントにつないでおくだけで多くの電力を消費しています。多くの家電製品は、リモコンで電源を切っても電力を消費しています。また、タイマーやメモリー、内蔵時計などの機能を維持する製品が増え、それらの製品は本体の主電源をオフにしても電力を消費しています。これが、「待機時消費電力」です。

家庭1世帯当あたりの待機時消費電力量は平均で228kWh/年であり、家庭の1世帯あたりの全消費電力量の5.1%に相当します。

## 家庭の機器別消費電力量

家庭では、電気の約4割が「冷蔵庫」、「照明器具」、「テレビ」、「エアコン」の4つに使われています。これらを買替えるときに、エネルギー消費効率の良い機器を選ぶことも大切ですが、冷暖房の適正温度を守ったり、冷蔵庫の開け閉めの回数を減らすといった、ちょっとした心がけをするだけでも、省エネ効果を高めることができます。



(出典) 経済産業省 資源エネルギー庁「総合資源エネルギー調査会省エネルギー基準部会(第17回)参考資料1」



### すぐにできる省エネポイント 待機時消費電力

#### 長時間使わない機器は コンセントからプラグを抜く



使わないときは機器本体の主電源スイッチをオフにすると待機時消費電力を約19%削減できます。

使っていないときに機器のプラグをコンセントから抜いても機能的に問題がない機器について、使わないときにプラグを抜くようにする、あるいは電源タップなどを利用して節電すれば年間の待機時消費電力量を約49%削減できます。プラグが抜けない場合は、表示OFF機能を利用することで、待機時消費電力を減らすことも考えられます。

(出典) 経済産業省 資源エネルギー庁「省エネ性能カタログ2016年夏版」  
経済産業省 資源エネルギー庁 HP「一般向け省エネ情報」  
URL: [http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving\\_and\\_new/saving/general/actual/index.html](http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/general/actual/index.html)

こちらにアクセスいただければ、お手持ちのスマホやタブレットからパネルの内容をご覧いただけます。

